

かくの滝も半ば埋まっている。15分ほどの下った所で、左岸から沢を合わせ、傾斜もゆるやかとなってホッと息をつく。ここからは水量が急に増えた。

すぐに5mの滝。右岸をクライミングダウンする。このあとも小滝が続き、二俣となる。花崗岩質の岩となり、この先も滝が期待できそうだ。

やがてゴルジュ状となって、10mの滝がかかる。左岸を捲くようにして下る。この沢最大の滝だ。このあと落差のある滝はかからなくなったが、ゴルジュ状の部分などもあり、変化のある沢歩きが楽しめた。

12:45 下降終了。 (記・ )

[タイム] 下降開始(10:30)→右俣出合(11:50)  
→下降終了(12:45)

### カブレ沢右俣

1987年8月29日

I.

8:05 遡行開始。小さなゴルジュと小滝を越えて進む。やがてF<sub>1</sub>10m。ここからがこの沢第一の核心部である。直登可能だが、右側から小さく捲く。その先の斜瀑を越えると二俣。右俣に入る。

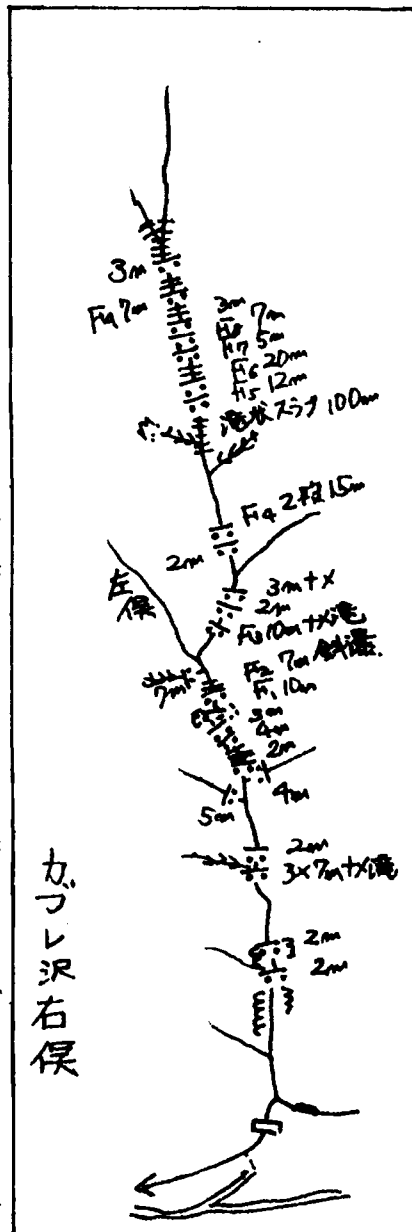
ナメ滝群を過ぎると、また二俣。水量は少ないが、左沢へとルートをとる。

F<sub>4</sub>2段滝を過ぎると、滝状のスラブとなる。100mくらいある。そしてその先は、連瀑帯である。7個の滝が続く。なかには20m程の落差をもつものもあるが、ホールド、スタンスともバッチリ。いずれも直登できる。快調である。

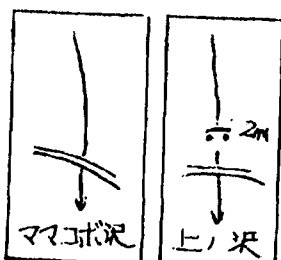
連瀑帯を過ぎると、ナメの二俣。もう水も少なくなっている。右に入ってすぐにヤブこぎ。30分程で尾根に出て、前沢の下降に移る。

( )

[タイム] 出合(8:05)→左俣出合(9:05)→沢終



了(10:40)→尾根(11:10)



### ママコボ沢

1987年8月30日

L5

沢は出合からヤブがかぶっている。そして、5分も遊るともう水がなくなった。何も無い。すぐに終わりにして、引き返す。

(記・.....)

[タイム] 出合(7:30)→遊行終了(7:35)

### 上ノ沢

1987年8月30日

L5

出合より見える2mの滝を越すと、その先は完全にヤブの中である。今日は小さな沢ばかり遊っているが、これほど短く平凡な沢ばかりだとは、考えてもいなかった。ついていない。5分で遊行終了として、出合に戻る。

(記・.....)

[タイム] 出合(7:45)→遊行終了(7:50)

### 中ノ沢

1987年8月30日

L

林道から沢に入ると、すぐF<sub>1</sub> 5m。さらにすぐにF<sub>2</sub>に出合。鈴木君は右側を直登するが、私は自信をもてないので、左岸を捲く。F<sub>2</sub>を過ぎると、沢にヤブがかかってくる。F<sub>3</sub>は、見方によっては石づまり。この付近では、沢にそって踏跡が続いている。F<sub>3</sub>の手前の支沢は、比較的切れ込みが大きい。しかし、水量比では20:1というところか。

やぶをこぎながら進むと、水量比1:5の二俣となる。右俣に入るが、左俣、右俣ともこの二俣の先で伏流となってしまう

